

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 2月 25日

【評価実施概要】

事業所番号	0191500057		
法人名	株式会社鈴木総合サービス		
事業所名	グループホーム平里の家		
所在地	〒049-3513 北海道山越郡長万部町字平里43番地23 (電話) 01377-2-6363		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	北海道札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成20年10月30日	評価確定日	平成21年2月25日

【情報提供票より】 (平成20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 19年 10月 25日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤	15人, 非常勤 4人, 常勤換算 16.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	2 階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	25,000~33,500 円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	17 名	男性	7 名	女性	10 名
要介護1	8 名	要介護2	1 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	77 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	長万部町立病院 北海道勤医協黒松内診療所 河井歯科医院		
---------	-----------------------------	--	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、もともと農地だった静かな場所に広い敷地を有しており、平屋造りの建物である。事業所内も広く、明るく開放的である。「地元の方が、高齢になっても安心して暮らせる場所を」との事業主の強い思いの下、昨年設立し、地域との交流に力を注ぎ、地域に根ざした運営を行っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 今回が初めての外部評価である。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は、職員全員で話し合い結果をまとめている。今後は、取り組みについての具体的な検討をし、質の向上に向けての活用に取り組むよう期待する。また、ユニット毎で自己評価を行うことが望まれる。
	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議を定期的で開催しており、そこでの意見を職員会議を通して職員に周知し、サービスの向上に活用している。しかし、参加家族が事業所で決めた代表者に限定されており、今後の検討が望まれる。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 金銭の管理状況については、定期的に関係書類を一部家族へ送付しているが、全家族にはない。近況報告については、随時必要に応じて、電話で行っているが、報告や相談を行ったという記録を残すまでには至っていない。電話や普段の訪問時に、家族から意見等を得たときは、速やかに申し送り等にて職員へ周知をし、運営に反映させている。今後は、家族会の開催や、意見箱等の設置も含めて、検討することが望まれる。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入しており、盆踊りや敬老会に参加するとともに、地域交流プログラムを計画したり、ボランティアも積極的に受け入れるなど、地域との交流をさかんに行っている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の中で尊厳ある生活」を基本とした、事業所独自の理念を作り、玄関やリビングに掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送りや、職員会議、研修会において、日常のケアの方向性が理念に基づいているかを常に確認しながら、ケアを提供している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会へも加入し、盆踊りや敬老会に参加するとともに、地域交流プログラムを計画したり、ボランティアも積極的に受け入れるなど、地域との交流をさかんに行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員全員で話し合い結果をまとめている。しかし、自己評価をユニット毎でまとめておらず、また、質の向上に向けて、活用するまでには至っていない。	○	管理者及び担当者は、自己評価や外部評価の実施意義を再度確認するとともに、定期的に自己評価を実施するなどし、評価を活かしたサービスの質の確保と、向上に取り組むことを期待する。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的を開催しており、そこで得た意見を、職員会議を通して職員に周知し、サービスの向上に活用している。しかし、家族からの参加者は、事業所で決めた代表者に限定されている。	○	今後は、全家族からの様々な意見をサービスに反映すべく、希望する家族が会議に参加できるような配慮が望まれる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村とは、必要に応じて連絡を取り合うなど、スムーズな連携体制を取っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	金銭の管理状況については、定期的に関係書類を一部家族へ送付しているが、全家族に送付はしていない。近況報告については、随時必要に応じて電話で行っているが、報告や相談を行ったという記録を残すまでには至っていない。	○	家族への報告や相談内容について、その内容が他の職員にもわかるよう記録に残し、よりスムーズなチームケアができるよう配慮することが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話や普段の訪問時に家族からの意見等があれば、速やかに申し送りなどで職員に周知をし、運営に反映させている。しかし、家族会を開催したり、意見箱等を設置するまでには至っていない。	○	今後は、家族からの、事業所に対する直接言えない意見等も反映させる方法を、検討することを期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は、必要最小限となるよう努力しており、異動する場合は、十分な検討や利用者への説明を行い、利用者へのダメージを少なくするよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地域のグループホーム広域連合会に加入しており、定期的開催される研修会には、積極的に職員を参加させている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム広域連合会で定期的開催される研修会には、積極的に職員を参加させるなど、同業者と交流する機会を設けている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前には、十分な面会等を行ったり、事業所を見学してもらうなど、雰囲気に徐々に馴染めるような配慮を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員は、一緒に食事の支度をしたり、掃除をするなど、共に支えあいながら過ごす工夫をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者の今までの生活習慣や好みを把握して、現在の生活に活かす支援方法を検討し、実践している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントに基づき、介護計画を作成するとともに、必要に応じて、ケアカンファレンスを開催している。しかし、介護計画作成の際、利用者又は家族から、計画についての同意や交付を行った記録を残すまでには至っていない。	○	介護サービス計画書は、原案を利用者又は家族に説明し、同意を得た上で交付を行うとともに、記録を保管することを期待する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画見直しの際には、アセスメントに基づきあらたな介護計画を作成するとともに、必要に応じてケアカンファレンスを開催している。しかし、介護計画作成の際、利用者又は家族から計画についての同意や交付を行った記録を残すまでには至っていない。	○	計画見直しにおいても、計画書の原案を、利用者又は家族に説明し、同意を得た上で交付を行い、その記録を残すことを期待する。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	必要に応じて、通院や買い物等の外出支援を随時行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関との連携をスムーズに取っていると同時に、協力医療機関以外の利用者のかかりつけ医への受診支援も行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在は重度化や終末期に対応できる体制にはないが、今後は、できるだけ早い段階から家族等の要望を聞き、その対応を行う方針である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日ごろより、利用者個人の尊厳を尊重した言葉かけや対応を行っている。しかし、表札やリビングの壁に飾っている写真や書道の名前等、また広報紙に掲載する個人情報についての同意を、本人または家族から得るまでには至っていない。	○	個人情報に関する取り扱いについては、十分慎重に行うことを期待する。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴など、利用者のペースや希望に沿った支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けは、利用者と職員が協力して行えるよう支援している。食事は、職員が利用者と別のテーブルで、見守りながら採っている。	○	食事の際には、職員と利用者が同じテーブルを囲んで、ゆっくりと楽しく食事ができる雰囲気づくりに心掛けるなど、今後の取り組みに期待する。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人ひとりの希望に沿った支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、利用者の過去の生活歴や職歴を把握することに努めており、その中で利用者ができる行為を考えて、食事の準備や後片付け、縫い物、掃除等の役割づくりに結び付けている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物、ドライブなど、可能な限り外出の機会を設けており、利用者が戸外に出かける支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関等に鍵をかけていない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間想定を含めた避難訓練と消火訓練を、それぞれ年2回行うとともに、消防署への報告も行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の資格を持つ職員が中心となって、献立の作成を行うとともに、看護師との連携の下、カロリーや水分摂取量等を把握しながら、一人ひとりに応じた支援を行っている。		
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある装飾品や写真を飾ったり、落ち着いた雰囲気のスファや家具を置き、居心地のよいしつらえづくりに取り組んでいる。不快な音や臭いはない。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は、自宅で使っていたベッドや家具、カーテンを持ち込んで、それぞれの個性に合わせた、その人らしい居住空間をつくっており、居心地よく暮らせる状態となっている。		

※  は、重点項目。